

薬学基礎セミナー

責任者・コーディネーター	薬学教育学分野 奈良場 博昭 教授 創薬有機化学分野 河野 富一 教授		
担当分野・学科(分野)	構造生物薬学分野、創薬有機化学分野、薬学教育学分野、衛生化学分野、薬物代謝動態学分野、薬剤治療学分野、情報薬科学分野、機能生化学分野		
対象学年	5	区分・時間数	講義 12 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

5年の終了時は、実務実習を終え、薬学部で学ぶほぼ全ての知識を修得していることとなる。この時期に、薬学基礎科目を再度復習し、最終学年を迎える準備を行う。

・教育成果（アウトカム）

主要な基礎科目を、問題演習を通して学修し知識の充足を確認すると共に、今後の勉強方法や学修方針を考えることにより、最終学年に備える。
(ディプロマ・ポリシー：2,4,7)

・到達目標（SBO）

- 1.物質の物理的性質について説明出来る。(117~172の一部)
- 2.化学物質の性質について説明出来る。(218~278の一部)
- 3.生命現象について説明出来る。(338~486の一部)
- 4.健康と環境について説明出来る。(487~566の一部)
- 5.薬物の作用と体の変化について説明出来る。(567~757の一部)
- 6.薬の生体内運命について説明出来る。(816~884の一部)

・講義日程

(矢) 西 2-A 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
2/17	水	1・2	薬学教育学分野 機能生化学分野 創薬有機化学分野 衛生化学分野 構造生物薬学分野	奈良場 博昭 教授 中西 真弓 教授 河野 富一 教授 杉山 晶規 教授 阪本 泰光 准教授	薬理、生物、化学、衛生、物理、薬剤の各分野の問題演習をとおして、知識の確認をする。 1.物質の物理的性質について説明出来る。 2.化学物質の性質について説明出来る。 3.生命現象について説明出来る。 4.健康と環境について説明出来る。 5.薬物の作用と体の変化について説明出来る。 6.薬の生体内運命について説明出来る。

					事後学習：確認テストの自己採点を行うこと。
2/19	金	1	薬学教育学分野	奈良場 博昭 教授	薬理分野の問題演習をとおして、学習状況と知識の確認をする。 1. 薬物の作用と体の変化について説明出来る。 事後学習：指定問題に関するノートを作成すること。
2/19	金	2	機能生化学分野	中西 真弓 教授	生物分野の問題演習をとおして、学習状況と知識の確認をする。 1. 生命現象について説明出来る。 事後学習：指定問題に関するノートを作成すること。
2/25	木	1	創薬有機化学分野	河野 富一 教授	化学分野の問題演習をとおして、学習状況と知識の確認をする。 1. 化学物質の性質について説明出来る。 事後学習：指定問題に関するノートを作成すること。
2/25	木	2	衛生化学分野	杉山 晶規 教授	衛生分野の問題演習をとおして、学習状況と知識の確認をする。 1. 健康と環境について説明出来る。 事後学習：指定問題に関するノートを作成すること。
3/1	月	1	構造生物薬学分野	阪本 泰光 准教授	物理分野の問題演習をとおして、学習状況と知識の確認をする。 1. 物質の物理的性質について説明出来る。 事後学習：指定問題に関するノートを作成すること。
3/1	月	2	薬物代謝動態学分野	幅野 渉 准教授	薬剤分野の問題演習をとおして、学習状況と知識の確認をする。 1. 薬の生体内運命について説明出来る。 事後学習：指定問題に関するノートを作成すること。

・ 成績評価方法

ノート提出状況（40%）及び定期試験（60%）により判定する。

・ 特記事項・その他

4 学年までに学習した薬理、生物、化学、衛生、物理、薬剤の各関連科目を復習し事前学習とすること。指定された問題を丁寧に解き、周辺知識を調べて解説ノートを作成すること。そのノートは提出を義務づける。これらの学習には各コマに対して事前・事後にそれぞれ 60 分程度を要する。更に、定期試験前に 12 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。